



# 浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会  
青森県農林水産部水産局  
水産振興課内  
TEL 017-734-9592  
編集：「浜風」編集委員会



## 平成22年度青森県漁業士会総会開催



平成22年5月14日（金）に青森市新町1丁目「アラスカ」において、青森県漁業士会通常総会が開催され、平成22年度の事業計画等について審議が行われました。また、総会に引続き行われた研修会では、北海道大学大学院水産科学研究院の高津哲也教授を講師に迎え、「底生魚類の資源量変動の謎に迫る－青森県沿岸を事例として－」と題して講演が行われました。教授には、青森県周辺で長年マダラや異体類を対象に研究された成果をもとに、その生態や資源変動についての解説や今後の漁業活動について助言していただきました。参加者は、「資源を大事に上手に利用するために、大型魚も保護して獲りすぎない・釣りすぎない工夫が必要である」との認識を深めました。



## 新会員の紹介

平成22年度、新たに2名が指導漁業士に、6名が青年漁業士に認定されるとともに、2名の青年漁業士が指導漁業士に移行しました。

### ○東青漁業士会



後潟漁協  
西谷 文昭  
(ホタテガイ養殖、底建網漁業)

この度、青年漁業士の認定を受けました後潟漁協所属の西谷です。

ホタテ養殖業に従事して25年になりますが、これからも漁業士会の活動を通じて他地区との情報交換や見聞を広め、安定したホタテ養殖に取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願ひします。



後潟漁協  
工藤 二郎  
(ホタテガイ養殖)

この度、青年漁業士に認定された工藤二郎です。

平成22年の高水温によって、私の所属する後潟漁協も壊滅的な被害を受けました。

漁業士会活動を通じ、諸先輩漁業士の方々から幅広い知識や優れた技術を学びながら、直面するホタテ養殖業の深刻な危機に真正面から立ち向かい、この先の養殖漁業を担うべく努力して参りますので、皆様よろしくお願ひします。

## ○むつ支部会



協野沢村漁協  
**中村 有男**  
(ホタテガイ養殖、  
小型定置網漁業)

この度、指導漁業士の認定を受けました中村です。

まだまだ未熟ではありますが、今までに青年漁業士として習得した事を十二分に発揮し、県内漁業振興に貢献していきたいと思っております。また、今後も各地区の漁業士の皆様及び関係機関と連携しながら魅力ある漁業を目指して研鑽して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



川内町漁協  
**濱田 貴幸**  
(ホタテガイ養殖)

この度は、青年漁業士に認定して頂き、ありがとうございます。

まだまだ未熟者ですが、この機会に漁業士会を通じて、各地区の漁業士の皆様といろいろな情報交換等をしていけたらと思っております。これからも青年漁業士として、頑張っていきたいのでよろしくお願い致します。



川内町漁協  
**高松 誠**  
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました高松です。

私はホタテガイ養殖業を主としていますが、昨年は、夏季の高水温によるホタテガイの大量へい死が起こり、大打撃を受けました。今後、関係機関の皆様の協力・指導を受けながら、各地区の漁業士と情報交換を密にし、この事態を速やかに解決していくよう取り組んでいきたいと思っております。

青年漁業士の経験がない私には重圧感がありますが、頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



川内町漁協  
**橋本 隆博**  
(ホタテガイ養殖)

この度青年漁業士の認定をいただき、関係者の皆様には大変お世話になりました。これを機に、研修会・交流会などに積極的に参加し、技術向上とともに知識も高められればと思います。そのためにも先輩漁業士の方々や、関係者皆様との情報交換を大事にし、漁業の発展繁栄のために頑張りたいと思っておりますので、宜しく願います。



白糠漁協  
**山田 晃**  
(いか釣り漁業)

当海域では、イカ釣り漁業とサケ定置網漁業が盛んに行われ、全体の生産高の8割位を占めています。また、磯根資源も大変豊富な漁場ですが、昨今、ウニの食害と思われる磯焼けが目立っています。

このように、当海域の環境は目覚ましく変化しており、その変化に対応できるよう日々知恵を絞っているところです。

私は、この経験を生かし、当海域に新たな漁業を展開・普及していきたいと考えているところであり、その為にも漁業士会のネットワークを活用したいと考えているところです。御指導・御助言、よろしくお願い致します。



尻労漁協  
**小笠原 亮平**  
(底建網漁業)

青年漁業士という称号を得て、社会に対する生産者としての責任を一層感じています。漁業の経験は未だ半人前のレベルですが、得てきた様々な経験を広く後継者に引継ぎ、地域漁業の活性化を目指したいと考えています。

これからの下北地域の漁業は、その地域特性を生かし大きく発展する可能性を秘めているものと考えています。自身も漁業の経験値を高め、この発展の一翼を担えるよう、努力していきたいと考えています。

指導漁業士

青年漁業士

## ○日本海支部会



尻労漁協

向井 祐樹

(底建網漁業)

この度、青年漁業士の仲間入りをしました。

未だ、半人前ですが、漁業士会の先輩や関係機関の御助言、御指導を得ながらスキルアップを図って行きたいと考えています。

漁業を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、新たな環境を展開できるような施策を講じていけるよう、生産現場と行政機関等の橋渡し役をしていきたいと考えておりますので、皆様の御協力をよろしくお願いします。

生産者のみなさん、明るい未来のある漁業を目指し、ともに頑張りましょう。



鱒ヶ沢漁協

長内 詩子

(底建網漁業、  
いか釣り漁業)

毎年の東日本女性漁業士交流会は、県内の女性漁業士の連携強化の場でもあり、ブロック内及び県内の漁業の現状を話し合う中で、自分の地域の問題点にも気づかされるなど、貴重な勉強の機会となっています。

これからは、これらの情報を地域に還元し、指導漁業士として、地域全体の活性化に向けて頑張りたいと思っています。



## 福田隆一氏 青森県水産大賞の受賞

### おめでとうございます

平成22年10月9日(土)に東通村の小田野沢漁民センターで開催された「平成22年度青森県豊かな海づくり大会」において、平内町の福田隆一指導漁業士が、青森県水産大賞を受賞されました。

福田氏は、昭和63年に指導漁業士となり、平成元年の青森県漁業士会及び平成7年の東青漁業士会立ち上げの際には、中心となって組織づくりに尽力されました。また、平成12年から15年までは、青森県漁業士会長として各種事業活動を行うとともに、現在も漁村地域の活性化や担い手の育成に大きく貢献されています。





# ホタテガイ大量へい死と外海の不漁対策に関する要請について

平成22年11月17日（水）に県庁において、山下会長、神山副会長、深川副会長、生駒理事、野坂監事、畑中前会長の6名が、青森県知事あてに「ホタテガイ大量へい死と外海の不漁対策に関する要望書」を提出し、柞木田水産局長が対応しました。

- 1 来年の稚貝を確保するため、必要な母貝確保対策を実施するとともに、従来よりも大量の採苗器を設置するための区域確保などの対策を講ずること

母貝対策については、むつ湾漁業振興会に設置する基金に対し1億円を支出することを、知事の専決処分で実施し、産卵母貝を確保する取組みを行うことといたしました。また、採苗器設置のための区域拡大に関しては、海上保安部と協議を進めています。

- 2 高水温発生などの海況予測手法を開発するとともに、高水温被害軽減のためのホタテ養殖技術及び代替魚種・漁法の開発を行い、その成果の速やかな周知・普及を図ること

高水温発生などの海況予測手法の開発と被害軽減のためのホタテ養殖技術の開発、代替漁業の開発については、生産者、国・大学・県の研究機関、市町村、県からなる専門家委員会を設置することとしています。

- 3 ホタテのへい死や外海の不漁により、漁労作業の減少が想定されることから、漁業従事者の雇用を創出すること

漁業従事者の雇用確保については、緊急雇用対策事業を活用し、採苗器を大量に作成する事業や、へい死した貝殻をナマコ増殖に活用する事業を実施することとしています。

4 スルメイカ、サケの資源が不安定であることから、当該資源の漁海況研究を充実するとともに、特に大型クラゲの出現を前提とした中・長期的な対策をサケなどについて講ずること

サケについては、近年、資源が不安定になっていることに加え、大型クラゲの大量出現等により漁獲量が減少していることから、今年度、日本海と下北地域において海中飼育による回帰率の高い稚魚の生産に取り組んでいます。今後も、引続き健康な稚魚を安定的に放流する資源対策を継続するとともに、大型クラゲの大量出現を前提としたサケ漁業の構築、サケ資源造成の方向について検討を進めます。

また、スルメイカについても、近年、産卵、発生海域の漁場環境の影響により、資源が大きく変動しています。今後も、県水産総合研究所の漁場調査を継続するとともに、国の研究機関と連携しながら、精度の高い資源評価と早期の漁況予測を行っていきます。

5 今後の漁業振興のため、地先資源の造成、漁業共済制度の充実、漁業後継者対策など総合的に対策を講ずること

漁業共済制度の充実については、来年度予算において、国が新たな対策を開始することとしていますので、共済未加入の方はこの際、是非加入していただきたいと思います。また、漁業後継者対策については、漁業経営の安定が最も大切であることから、今後も漁業所得の向上、経営安定対策を行うことにより、漁業就業者の減少を食止めたいと考えております。この点につきましては、漁業士会の皆様のご協力もよろしくお願い致します。





# 支部会トピックス

## ○むつ支部会

去る6月4日（金）、横浜町において「海浜清掃及び管内交流会」と題して、漁業士と地域の漁業者との交流会を企画し、開催しました。地元からは、横浜町漁協青年部を中心に若手漁業者が参加し、総勢50名による砂浜海浜海水浴場周辺の清掃が実施されました。また、交流会では、地元で漁獲される魚介類を酒の肴に、ホタテガイ養殖の生産工程等について意見交換が行われ、改めて漁場利用の在り方について認識を高めていました。

このほか、毎年恒例の「生産者による豊漁・豊作祈願祭」を開催し、魚食普及に努めました。来年も各種活動において魚食普及に努めていきたいと考えています。



## ○東青漁業士会

### 1. 青森県市場食育祭りに参加

平成22年9月26日、青森市中央卸売市場において開催された青森県市場食育祭りに参加しました。当日は朝7時に集合、会員16名が参加して、ベビーホタテのバター焼きとイカ焼きを“破格のお値段”で販売し、地産地消・魚食普及のPRを行いました。

午前9時、販売開始。売れ行きは昼近くなった11時頃から好調となり、昼飯もそこそこに商売に没頭して、めでたく完売しました。

当初は「自分たちの育てた新鮮なホタテを食べてもらいたい」との思いから、ホタテ活貝も販売する予定でしたが、これまで例のない夏場の高水温の影響で、断念せざるを得ませんでした。大きなPR効果を期待できる看板メニューだっただけに、残念でなりません。

折しも高水温の影響による不安を感じながらの活動となりましたが、試食で味を確かめたお客様にホタテバター焼きを2パック、3パックとまとめ買いしていただくなど、盛況のうちに終了したことで、元気をもらったような気がしました。



## 2. 学習会の開催

多くは語りませんが、平成22年は陸奥湾のホタテ養殖にとって大変な年となりました。

東青漁業士会は会員53名ですが、このうち50名はホタテガイ養殖に携わっており、このたびの被害を克服して再生を目指すことが大きな関心事となっています。

そこで、平成23年1月19日、青森市アラスカにおいて、学習会を開催しました。内容は次のとおりです。

### 1 講演「陸奥湾の海況について」

水産総合研究所漁場環境部 主任研究員 田中淳也さん

### 2 講演「異常高水温によるホタテガイ大量へい死について」

水産総合研究所ほたて貝部 研究管理員 吉田 達さん

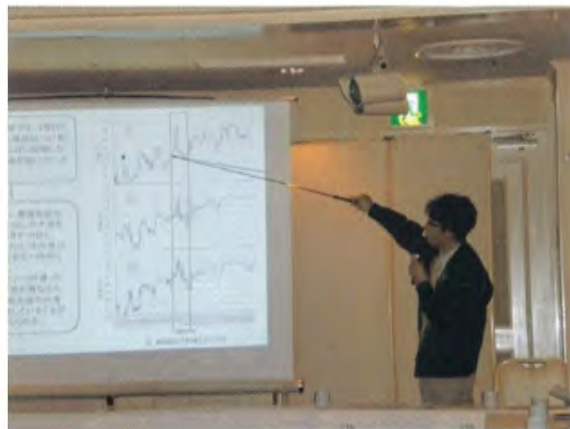
### 3 情報提供「陸奥湾ホタテガイ高水温被害対策」

水産振興課 技師 田澤 亮さん

当日は会員21名が出席、講師の説明を真剣に聴き入っていました。

会員からは漁業者の視点からの意見も多数出され、活発な議論がなされるなど、予定時間をオーバーするほど中身の濃い学習会となりました。

とてもわかりやすい説明をしていただいた講師の皆さまには、この場を借りてお礼申し上げます。



## ○日本海支部会

漁業士会日本海支部会が、6月29日に岩崎海岸で、海浜清掃を行いました。11名の会員と、深浦町役場、鯨ヶ沢水産事務所職員の計15名が参加しました。遠路はるばる、十三漁協からは小倉指導漁業士も参加しました。暑い日でしたが、参加者のがんばりで海岸は非常にきれいになり、会員の交流も深まりました。



## ○三八漁業士会

### 1. 8月10日「八戸イカの日」夏休み親子の楽しいイカ学習会への参画

平成22年8月10日「イカの街はちのへ まちづくり研究会」が定めた「イカの日」（毎月10日はイカの日、毎年8月10日は八戸イカの日）制定記念関連イベントとして、八戸市水産科学館マリエントで開催された標記学習会に深川会長、畑中指導漁業士、関野青年漁業士、速水名誉漁業士が参画しました。

参加した120名の親子に対して「浜の漁師さんによるイカのさばき方」と題して刺身や塩辛の作り方や、干し方を実演指導しました。参加者は各漁業士の実演や手ほどきを受けながら慣れない包丁を操り、一生懸命に刺身を造っていました。

親たちからは「普段とは異なるイカのさばき方を教わることができ、大変参考になった」、また、子供たちからも、「これからはお家で手伝いたい。」などの声も聞かれ、大いに盛り上がった学習会でした。



### 2. 第52回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会で、関野稔青年漁業士が最優秀賞を受賞しました。



平成22年11月17日（水）、青森市県民福祉プラザで開催された同大会で、関野稔青年漁業士は「ヒラメ曳き釣りによる漁家収入の向上」ー大型クラゲに負けない持続可能な地域漁業を目指してーと題して発表しました。

- 従来の小型ヒラメ主体の刺網漁業からヒラメ曳き釣り漁業に転換したことによって、経費の節減と高単価な大型ヒラメの漁獲により漁家収入の向上に繋がったこと。
  - 懸案であった小型魚の再放流が容易となり資源管理型漁業が実践できること。
  - 大型クラゲが大量に来遊した際にも影響を受けずに操業することができ、地域に根差した漁業を開発できたこと。
- などの活動内容が評価されました。

### 3. 平成22年度資源回復制度普及・啓発講習会(東部ブロック)で、北向清吉指導漁業士が5艘1艘「ホッキガイの共同操業について」の講演をしました。

平成23年2月4日（金）、東京都品川プリンスホテルで全漁連主催により標記講習会が開催され、水産関連関係者120名の参加者がありました。

北向指導漁業士は、5艘1艘、すなわち、35名の漁業者を5人1組の7グループにする際の苦労話や、ホッキガイを獲るため沖に出たところ、船頭多くして船が山に登るような有様となったことなど、浜で実際に生じた出来事も紹介しながら、元来、一匹狼的な性格である漁業者が何度も何度も話し合いを重ねたことによって、5艘1艘の共同体制が出来上がり、目的であった経費節減を達成して漁家収入が増加したことを講演しました。

参加者らは、なかなか知りえない現場の浜で起きた漁業者の様子がよく分かり、非常に参考になったとの発言が多く、百石町漁協への視察申し込みなどもあり、高い評価を得ました。







## 平成22年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

三八漁業士会 深川修一

平成22年6月16日、岩手県宮古市で開催され青森県より12名の参加でありました。

基調講演は

(1) 「全国の漁業士・漁業士会の状況と最近の動き」と題して

水産庁増殖推進部研究指導課普及課長 田中 全 氏

(2) 「ITを利用した水産物の流通・販売」

(有)三陸とれたて市場 代表取締役 八木 健一郎 氏

特に、ITを利用した水産物の流通、販売はNHKにも放映されて今、非常に人気の高い話題でありました。内容的には、船舶に取り付けられた漁船ライブカメラが操業開始と同時に船舶の電源投入を感知し自動起動する。携帯電話網 (FOMA) を経由してインターネットに接続され、ホームページを閲覧する客に「今、沖で作業している生産者」の作業風景をライブで届けている。‘海’という生産現場の姿をありのままリアルタイムに顧客に届けて、食の安全安心を売る。船上でも魚を直売するなど今までにない画期的な流通方法で魚価アップに在庫が残らないということを実践している。この講演は今後、非常に役立つことになると思いました。その他は、各県から事例発表・意見交換がなされ次回開催県は宮城県に決定し、盛会裏に閉会した。



## 平成22年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 三ツ谷孝幸

今年度の研修会は平成22年8月25日に石川県七尾市において開催されました。

話題提供では、地元石川県で定置漁業を営んでいる漁業士から「“やっかい者” 転じて高級食材となる～大型クラゲの食用化の試み～」と題して発表がありました。

本県日本海においても大型クラゲは悩みの種で、現在までも食用化に限らず実用化に向けた様々な試みがなされてきましたが、今回の試みは、塩漬けにして中華料理の原料とする取り組みでした。商品化し中華料理店で試食した際、味に関しても好評だったようですが、やはり中国の製品との価格差が課題であるとのことでした。水揚げする際も100キロを超えるクラゲですが、塩漬けにし水分を取ると10分の1以下になるとのことでした。ただし、あの大型のクラゲをほぼ原型のまま塩漬けにしなければ良質な商品にはならないとのこと、設備の整った船では容易に荷揚げも可能ですが、漁業種類、漁法によっては、様々な課題もあるように感じます。

また、水産庁研究指導課から「全国の漁業士・漁業士会の状況と最近の動き」と題して報告がありました。昨年度本県で開催の際もあげられていたように思いますが、漁業士会のメリットとしては、人的交流や情報収集などがあり、問題点としては、活動する人の固定化や活動内容のマンネリ化などをあげられていました。各県の漁業士会とも活動の方向性に悩んでいるとのことでした。

情報交換会でも、他県の漁業士と情報交換し、最近の水温の変化によって漁獲される魚種が変化していることなど、様々な情報が交換でき参考になりました。来年度は鳥取県において開催されるとのことです。





## 女性漁業士交流会について

(平成22年8月23日～24日 岩手県宮古市)

平成22年8月23日(月)に岩手県、宮城県、茨城県、千葉県、新潟県及び青森県の女性漁業士が集まり、交流会が開催されました。本県からは、女性漁業士7名が参加しました。岩手県立宮古水産高校金野校長による「水産業・水産高校連携普及事業について」と題した講演の後、各県女性漁業士の取り組みや女性漁業士の今後のあり方等について活発に意見交換がなされました。翌24日(火)には、田老町漁業協同組合JFたろう加工場において、とろろ昆布と塩蔵ワカメの加工場を視察し、その後岩手県立水産科学館を見学しました。



## 第52回青森県漁村青壮年女性団体

## 活動実績発表大会について

平成22年11月17日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第52回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催され、5人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って、その活動の実績を発表しました。発表内容は、県や漁業関係者など14名の審査員によって審査され、優秀賞に「八戸蛇浦漁業協同組合小型船部会」が選ばれ、平成23年3月1日～2日に、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門で開催された「第16回全国青年・女性漁業者交流大会」において、関野稔さんが本県代表として発表し、農林水産大臣賞を受賞されました。

また、平成22年3月8日～9日に、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催された「第15回全国青年・女性漁業者交流大会」において、風間浦村きあんこう資源管理協議会の金田一善唯さんが発表した「わいどの村のキアンコウをトップブランドへ」が、農林中央金庫理事長賞を受賞しました。



第15回全国青年・女性漁業者交流大会



第16回全国青年・女性漁業者交流大会

## 発表課題

- 1 ヒラメ曳き釣りによる漁家収入の向上 ～大型クラゲに負けない持続可能な地域漁業を目指して～  
八戸鮫浦漁業協同組合 小型船部会 関野 稔

小型ヒラメが多獲される刺網漁に替わり、資源に優しく収益性が高い漁法としてのヒラメ曳き釣り漁に取り組んだもので、潜航板や疑似餌を試行検討するなど、漁具の改善に努め、ヒラメの安定生産を実現することを目指した。

- 2 生産者による消費者への鮮魚直接販売の取り組み ～実践までの苦悩を振り返る～  
青森県漁業士会 むつ支部会 川端 昭也

漁村でしか消費されない低利用魚介類の普及と長期化する魚価安を打開するため、消費者への直接販売を企画し実践しているもので、法令に規定される手続きや規制に合致した施設の設置など多くの困難を乗り越えて、下北地域の漁家経営の安定を目指した。

- 3 脱サラ漁業者が立ち向かう磯焼け問題 ～青年部会発足から3年を経て～  
蛇浦漁業協同組合 青年部会 富岡 正昭

地域の漁業就業者の深刻な高齢化を聞き、地元に戻り漁業に従事するとともに、海藻類の資源量の回復を目指して、磯焼け調査や藻場造成試験を行って藻場回復に取り組み、地域の活性化へとつながった。

- 4 ホタテガイモデル養殖試験 ～ホタテガイ養殖業の原点を見つめ直す～  
平内町漁業協同組合 平内町漁業連合研究会小湊支部 辻村 誉

ホタテガイ養殖業の原点を見つめ直し、養殖方法や養殖環境条件等を総合的に検討して、現在の状況にマッチした養殖業のモデル作りを行って、大型貝を生産し、ホタテガイ価格と養殖経営の安定化を目指した。

- 5 海とともに生きる私たち ～子供たちの目が輝くお魚料理教室～  
新深浦町漁業協同組合 北金ヶ沢漁協女性部 伊藤 満由美

地元の中学生を対象にした地元食材の料理教室による魚食普及で魚価の向上を図りつつ、地域の後継者づくりにも貢献して、地域の活性化に努力するとともに、救命胴衣着用推進や海岸清掃など環境保全へ取り組んだ。



# 漁業後継者育成研修

## ひん 賓 よう 陽 じゆく 塾 塾

### 漁業に関する知識と技術を身につける

通常研修（6月～7月）

- 講義：青森県の水産業、漁業関係法令  
栽培漁業、海事・船舶一般など  
実習：沿岸漁業実習（籠・さし網漁業）  
ロープワークなど  
視察：県内水産関連施設  
（青森県栽培漁業振興協会、内水面研究所など）



（ロープワーク実習）

### 資格取得と現地漁業実習



（小型船舶操縦士実技講習）

選択研修（8月～2月・受講生のうち希望者）

- 資格取得：一級・二級小型船舶操縦士  
第二級・第三級海上特殊無線技士  
潜水土  
現地漁業実習：沖合イカ釣り（試験船乗船）  
定置網

### 募集要項

- 募集人員：10名程度  
通学方法：自動車（事情によっては所内宿泊施設の利用も可能）  
受講料：無料（資格取得のための経費は実費負担）  
応募資格：県内の漁業に従事する漁業後継者または県内の漁業へ就業を希望する者（性別・年齢不問）  
研修場所：地方独立行政法人青森県産業技術センター 水産総合研究所  
〒039-3381 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

### 《お問い合わせ》

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 青森県農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループ  | 電話：017-734-9592 |
| 地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所 | 電話：017-755-2155 |
| 東青地域県民局地域農林水産部青森地方水産業改良普及所 | 電話：017-756-2520 |
| 三八地域県民局地域農林水産部八戸水産事務所      | 電話：0178-33-8112 |
| 下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所      | 電話：0175-22-8581 |
| 西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所     | 電話：0173-72-4300 |

来たれ！青い海の徳師になるために！